

国内研修報告書

<研修先> 福島県檜枝岐村

<研修日程> 2023年8月20日（日）～23日（水）

私たちは国内研修制度を使用して福島県檜枝岐村へ研修に行きました。今回の研修には同じゼミの子に誘われたことがきっかけで参加しました。当初は檜枝岐村について昨年野田先生の講義の中で名前が挙げられていたなというほどの印象しかありませんでした。しかし野田先生が檜枝岐村について書かれていた論文などを読み、檜枝岐村の競わない観光のあり方や利益の総有、共同性や平等性に対して興味を持ちました。今までの講義を通して実際に現地に行き、お話を伺うなどの調査がどのような雰囲気なのかを国内研修制度によって体験でき、とてもよい経験となりました。実際に檜枝岐村の民宿に宿泊し村役場の方や観光協会の方、民宿の方などに話を伺ったり、村内を歩き回ったりし、檜枝岐村の雰囲気を肌で感じることができました。この報告書では檜枝岐村での国内研修を通して学んだことや印象に残ったことをまとめていきます。

檜枝岐村は福島県の南西部に位置し、尾瀬国立公園の福島県側からの玄関口として知られている観光地です。人口は526人（2021年9月末時点）の小さな村であり、また標高が900m前後のため豪雪地帯ではありますが夏は涼しく避暑地としても知られています。しかし村のほとんどが山であり平地がなく涼しい気候のためお米が育たず蕎麦などの雑穀を育てたり収入源として木工業などを行ったりしていました。しかし明治時代に行われた地租改正によって村の面積が390平方キロメートルほどあるのに対し、その内の94%が国有林として国のものになり自由に木を使えなくなってしまったことから貧しい時期が訪れました。

1961年に檜枝岐村と新潟県魚沼市に跨がる位置に日本国内でも有数の大きさを誇る発電ダムである奥只見ダムができた際の大規模償却資産税という固定資産税による税収により村の財政が豊かになりました。村役場はそれによってインフラの整備や温泉を掘り全戸に供給するなど1950年頃から尾瀬に観光客が多く訪れるようになったこともあり、観光地として商売をしていく下地を整え、村民に民宿を始めるように呼びかけました。

現地に行く前の仮説としてこの土地は尾瀬の観光ブームや温泉も村から湧き出ておりほとんどの家庭に供給されているなど観光業が始めやすい環境にあったため観光業が盛んに行われている、小さい村だからこそ村内で競争するのは関係が悪くなってしまうために連泊を進んで受け入れていないのではないかと考えていました。しかし1日目に檜枝岐村役場の住民課課長平野勝さんにお話を伺いその考えは違っていたことを知りました。檜枝岐村の観光は村が主導で始めたことに秘密がありました。平野さんのお話によると貧しい時

期から抜け出すために村役場が、村民をお金により得られる方向へ誘導していき、その方向が観光業でした。加えて昔から多くのことを村役場主導で行うことが多かったことや人口500人程度という規模のちょうど良さから村民全体が一つの方向に向かっていきやすい、まとまりやすいという村民の雰囲気も今の発展の要因となっているようです。また温泉も村役場が主体となって掘り当てたことにより一部による独占が起こらずに全体への供給が成り立っているようです。その温泉も村から湧き出ていると考えていましたが元々湧き出ていたわけではなく、観光業を始めるために5kmほど下流から引き上げているようです。民宿に関して民宿の方が連泊を進んで受け入れる方が少ないのも村全体の利益を優先しての考えなのではないかと考えていましたが、提供する料理のレパートリーが少なく似たようなものしか出せないためというのが理由の一つにあるようで驚きました。

3日目は「民宿こまどり」さんに泊まらせていただきました。その際に民宿の主人である星俊秀さんにお話をお聞きし檜枝岐村の歴史や民宿について話していただきました。その中で印象に残っているお話がありました。檜枝岐村の土地に関する捉え方についてのお話です。平野勝さんのお話では、村民には村の山などが国有林としてとられてしまった経験によって土地に関する村の土地を取られない、譲らないという共通の思いがあるとおっしゃっていました。このことについて村民の方はどう捉えているのかをお聞きしました。

星さんにお話をお聞きするとバブル頃の経験からそのような考え方が生まれたとおっしゃっていました。バブルの頃によその人が入ってくことで村の繋がりだったりを乱してしまったり税金を払わなかったりという人が問題となっていたようです。そのため村役場がそのような問題を避けるために、もしお金が必要で村の中で所有する自分の土地を手放したいのであれば村役場に一言言ってもらい村役場が立て替えるということをしていたそうです。その行動に関して星さんは村役場ができるだけ檜枝岐村の空いている土地を村役場所有の土地にしたいと考えているのではないかとおっしゃっていました。このようなお話をお聞きして平野勝さんと星俊秀さんの考え方や捉え方が少し異なっていたため印象に残っています。専門演習の授業において行政と地域住民との間において一つの事柄に対する考え方の違いがあることは学んでいましたが実際にはどのような感じで起こるのだろうかと考えていたため今回の研修において実体験することができ、勉強になりました。

檜枝岐村の方にお話をお聞きして、檜枝岐村の共同性や平等性は何事も村役場が主体となって進めているために形作られたものであること、人口500人程度という適度な村の規模感であることなどが要因であるのだということを学びました。

また今回の研修を通して実際に現場に行くこと、その土地の方にお話をお聞きすることの大切さと難しさを改めて実感しました。実際に檜枝岐村の規模を体験することができたこと、滞在することによって少しではありますが檜枝岐村の暮らしに触れることができたことは座学だけでは得られない経験になったと感じます。加えて役場職員の平野勝さんや最終日にお話を伺った観光協会の方、公民館の方にはアポイントメントをとり、お話を聞か

せていただきました。事前に研修のメンバーと地域住民の方にもお話を聞いてみたいという思いがありましたが実際に地域の中に入り込んで住民の方にもお話をお聞きしようとすると話しかけるタイミングや言葉など深く考え込んでしまい思うようにお話をお聞きすることができませんでした。想像するよりもはるかに住民の方にお聞きするということの難しさを実感しました。この経験からこれからの課題として地域住民の方にお話をお聞きするすべのようなものを秋学期の専門演習において担当の先生から学んでいきたいと考えています。

今回の国内研修制度を利用して実際の現場の雰囲気を感じることができたこと、人に話を聞くという経験ができたこと、自分が苦手とすること、これからの課題についてなど再確認できたことはかけがえのない経験であり多くのことを学ぶことができました。この経験を活かしこれからの学びを深めていきたいです。